令和6年度事業報告書

令和6年5月24日

明德保育園 園長 豊田 誠

当該事業報告書は次のとおりであります

保育の目標

保育の特色

1 施設事業運営

(1) 児童処遇

ア 年間入所児童数

イ 園児の健康管理

ウ 栄養管理

エ 保育

オ 園児の安全管理

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

イ 職員の健康管理

ウ 労務管理

エ 研修・講習等

オ 職員会議

カ 福利・厚生

2 施設業務運営

(1) 運営関係

(2) 児童処遇

(3) 設備関係

(4) 修繕関係

(5) 災害対策

(6) 年間実施行事

(7) 地域との連携

(8) その他

保育理念

一人ひとりが宝物
一緒に育とう 育てよう
かがやく笑顔 明德保育園

保育方針

- * 多様な個性を大切にします
- * 子どもも保護者も職員も一緒に笑顔になりましょう

保育目標

- * 「みんなちがって、みんないい」の心を育てます
- * 大人も子どもも安心して過ごせる居場所を作ります
- * 子どもの「やりたい！」をかなえる環境を作ります
- * 自分で考えて行動できる力を育てます
- * 食に興味のある子どもを育てます
- * 子育てを一緒に考え応援します

保育の特色

- ・ 生後 57 日目の乳児から保育を行なう
- ・ 午前 7 時 00 分から午後 7 時まで 11 時間開所保育及び延長保育の実施
- ・ 園舎内における裸足・薄着の励行で丈夫なからだ作りをする
- ・ リトミック・ことば遊び・体育遊びをとりいれ心身の成長を図る
- ・ 習字（年長児）文字に興味をもつ。
- ・ 散歩、戸外遊びをして情緒の安定を図る
- ・ 衛生指導 爪の検査、子供の健康とからだの仕組みを把握する
- ・ 障害児との統合保育、
- ・ 行事ごと写真入りのお便りをその日のうちに作成して掲示・配信をする。
- ・ 保育の中に食育を取り入れ、給食の素材の手伝うことにより食べることに興味を持ち食べる意欲を高める。

1. 施設事業運営

(1) 児童処遇

ア 令和6年度入園児童数および今年の特徴

令和6年度年間在籍児童数

	0才	1才	2才	3才	4才	5才	合計
4月	11	20	21	21	22	21	116
5月	12	20	22	20	21	21	116
6月	12	20	22	20	21	21	116
7月	12	20	22	20	21	21	116
8月	12	20	22	21	21	21	117
9月	12	20	22	21	21	21	117
10月	12	20	22	21	21	21	117
11月	12	20	22	21	21	21	117
12月	12	20	22	21	21	21	117
1月	12	20	22	22	21	21	118
2月	12	20	22	22	21	21	118
3月	12	20	22	22	21	21	118
合計	143	240	263	252	253	252	1,403

- ・ 令和6年度は入園予定の0才児の入園が辞退となり、2・3・5才児も欠員でのスタートとなった。幼児は欠員になるとなかなか埋まらない状況です。
- ・ 令和6年度も1対1で配慮が必要な子どもが複数在園したため、手厚い職員配置とした。

イ. 園児の健康管理

園医 内科医 有村医師

歯科医 茂手木医師 臨床検査 立川臨床

令和6年度も毎月の乳児検診を含め、検診や歯科検診を実施。

また、毎月1回の身長、体重測定（看護師による）。手洗い指導、衛生管理指導、乳児室の消毒、しらみなどの頭髪の検査や空気清浄（空気清浄機）などを実施した。

- ・ こどものけが、応急手当、医師への連絡、緊急時の対応、保護者への連絡、お迎えまでの病児の看護、観察、感染症の予防、予約依頼書による投薬管理
- ・ 夏期にプールは実施せず、水遊びとした。今後もグッズを充実させて水遊びで対応したい。
- ・ 感染症に関しては、新型コロナ対策を含め、消毒、手洗い等をこまめに行い、感染拡大防止に努めたが、手足口の発生が多かった。また、6月には胃腸炎の感染が広がり、食中毒を疑われた（保健所等と連携して調査したが食中毒ではないとの結果であった）。

職員に関する健康注意

- ・ 職員の手洗い（逆性石鹼による消毒）おむつ交換、排泄時の始末消毒などの徹底）毎月の細菌検査、年1回の健康診断の実施、給食時の配膳時の使い捨ての手袋の着用などを実施。
- ・ 吐しゃ物処理時の使い捨てエプロンの着用など、園での対応の意思統一を行なった。

ウ. 栄養管理

	1日の熱量 (kcal)	1日のたんぱく質 (g)
3才未満児	452 kcal	15.3 g
3才以上児	547 kcal	19.1 g

執行献立内での栄養摂取量も平均を超える位の状況で園児たちの食への関心は深くどの子どもも楽しんで食べていた。手作りおやつ、調味料も自然のものを子供の食と安全に気をつけより質の高い給食をこどもに提供することができた。

今後も献立を「和食」を中心に構成し、進めていきたい。

*献立作成の特徴と留意点

- ・ 献立では「和食中心」を打ち出し、保護者にもアピールしながら進めた。栄養のバランスと和、洋、中の組み合わせの献立を考慮し、行事食のメニューは視覚でも楽しめるものを取り入れた。
- ・ 令和6年度も調理保育をクラスごとに企画して献立と調整をとり、保育の中に取り入れ給食の一部として調理に参加した。
- ・ 朝7時から夜7時までの保育児に対しても補食の工夫を行なう。
- ・ 令和6年度も除去食が必要な園児がいたが、全ての献立をアレルギー対象の食材を使わないものに変更して対応した。令和7年度も過去の経験を継承していくため、代替え食の提供についてシミュレーションを実施する予定である。
- ・ 乳児幼児の発達の考慮で献立をわけたり切り方の配慮をし、偏った素材のないような配慮をしている。

*保護者への対応

- ・ 食の細かい子、発育の悪い子、好き嫌いの子などの保護者の相談や保護者との面談もおこない家庭での食事の状態などの記録もして個別に食事状態を把握した。
- ・ 毎日の給食の展示。

エ) 保 育

*保育計画（カリキュラム）作成

- ・ 例年と異なり、行事以外についても制限される事が多く、工夫しながら保育を行った。
- ・ リトミックなど、外部講師を招いての研修は内容を変更しながら可能な範囲で実施した。
- ・ 保育計画や個別カリキュラムなどについてはエクセル等でICT化している。
- ・ 0歳児については、担当制を実施してみたが、実績として良い部分が多く、1歳児でも取り入れ、2歳児にも拡大中である。来年度も引き続き実施したい。
- ・ 幼児については、異年齢での保育を増やした。こちらについても令和7年度も継続していく。

*保育の状況

4月→新入園児の鳴き声のもと新年度がスタートした。

園庭入口の桜の木に数輪の花が咲いた。

5月→6月の運動会に向けて練習。近年 気候の変動により熱中種に警戒しながら行った。

6月→運動会を2階園庭で行い、様子を配信して保護者の方に楽しんでいただいた。

7月→年長児の最大イベントであったお泊り保育は、久しぶりにサマーランドとなった。

十分に遊んだ後、園に戻って楽しむ「おたのしみ保育」として泊まらずに実施した。

8月→プールについては、水遊びを実施した。

9月→引き渡し訓練を実施（保護者参加での訓練）

12月→園内でクラスごとに発表会を行なった。人数制限をして保護者の方にも参加していただいた。

2月→昨年度と同様、もちつきではなく「めいとくフェスタ」として実施した。令和7年度以降も「もちつき」は行わず、「フェスタ」として実施する事とした。

3月→卒園式は、保護者2名の参加として実施し、年長児21名が卒園した。

*地域交流

・いっしょに遊ぼう	久しぶりに実施、多数の参加があった。
・地域の子育て世帯との交流保育	ふれあい動物園、運動会、観劇会など工夫しながら実施。
・小学生との交流	新型コロナ前と同様に実施
・世代間交流、お年寄りとの交流	新型コロナ前と同様に実施予定であったが、未実施
・小中高生の育児体験受け入れ	新型コロナ前と同様に実施
・保育所体験	新型コロナ前と同様に実施

オ. 園児の安全管理

- ・朝の始業前に行うミーティングでのその日の各クラスの保育予定と安全確認の諸注意、子どもの伝達事項、伝染性疾患の連絡、職員の連絡。給食よりアレルギー児の献立の連絡。
- ・園外保育に行った時の注意事項の確認。行った先での遊具の点検等も引き続き実施。
- ・SIDSの注意と職員研修と実践、就寝中の定期的な視診と記録。
- ・保育室内外の障害物の定期点検、園庭整備
- ・非常通報装置による緊急時の通報システム、放送設備の点検
- ・室内の環境整備、危険防止対策

(2) 職員処遇

ア) 職員構成

他の法人では保育士の確保が困難なため、受入れ人数を減らしている園もあるが、ほぼ予定通りの職員配置が出来たため、定員いっぱいの受入れが可能となった。

体調不良により退職となった職員もいたが、代替りの職員の採用も問題なく行えた。

また、産休・育休職員が出たが、代替え職員の確保も問題なくできた。

イ) 職員の健康管理

全職員の健康診断を行なった。35歳以上の職員は生活習慣病健診 35歳未満の職員は若年健診を行なった。

- ・乳児担当職員、給食担当職員は毎月1回、全職員は年2回のO-157を含む細菌検査を立川臨床で実施する。
- ・今年もインフルエンザ予防接種をうけた職員の接種費用の一部補助をした。

ウ) 労務管理

- ・有給休暇の消化を励行した。
令和6年度についても、有休の取得率は高く、90%台数名を除き、100%の取得率である。
- ・時間休暇、介護休暇や看護休暇等も多く職員が利用している。
- ・36協定等の締結

エ) 研修・講習

・職場内研修

リトミックなど外部講師を呼んでの職員への園内研修も実施できた。

・外部研修

Webにより受講できるものが増えてきたためZOOM等で受講した。

オンデマンドの研修も半年契約を行い、活用した。令和7年度も契約し、活用したい。

オ) 職員会議

- ・毎月1回の職員会議→全職員参加 行事計画、懸案事項、研修会伝達
パート会議→午前、午後のパート会議、行事計画、仕事の意見等
- ・リーダー会議→園長、主任、副主任、各クラスリーダー等が参加し各職種の園の主要な全体的な案件事項、行事等の方針を話し合い大筋を決めた。
- ・勉強会→毎月勉強テーマの計画をたて計画に沿って出席する職員を決め勉強をした。
令和6年度はオンデマンドの研修を多く行った。
- ・乳児会議・幼児会議→乳児・幼児で月反省、来月の予定、行事など、それぞれの課題を話し合い、全体に活かした。
- ・朝のミーティング→就業前に全員で一日の予定、伝達事項、注意事項などについて話し合う
- ・行事の実行委員会→担当の職員による行事の企画、実践
- ・園内管理職会議→園長、主任、副主任、乳児、幼児責任者との方向会議を懸案毎に行った。

2. 施設業務運営

(1) 運営関係

令和6年度は手足口、胃腸炎やリンゴ病が流行ったが、胃腸炎の発生タイミングが食を伴うイベントの直後だったため、保護者から食中毒を疑われたが保健所と連携を取って調査を実施し食中毒ではなく胃腸炎の感染との結論が出た。

感染症や食中毒は目に見えるものではなく、100%確実な結論を出すことは困難（不可能）ではあるが、発生時の状況の記録がしっかりとれていたため早めに保護者にもアナウンスできた。また、発生時には合同保育や延長保育を含めて、保育体制への対応が難しい。

すべてリスクとのバランスによる部分が大きいため、内容やタイミングなどを見ながら今後も対応して行きたい。

(2) 児童処遇

事業費支出では保育材料も予算どおりの執行であり、遊具も発育に適したものを見直して、新しく購入、整備をした。予算の範囲内で無理なく執行できた。

また、給食は「和食」を中心とし、添加物の少ない素材を使い、決められた予算の範囲で執行できた。今年度も、今までのステリプロによる除菌・消毒に加えて、アルコールによる消毒も実施した。

(3) 設備関係

年度途中の1月からICTシステムをキッズリーからルクミーへと切り替えた。

キッズリーと同じ業者が開発したものであり、システムは異なるがアップデートに近かったため、大きな混乱もなくスムーズに切り替えられた。

管理画面は大きく変更されたため、管理・操作する職員の方が苦勞が多かったと思われる。

※令和7年度の新入園児についても問題なく登録、運営できている。

職員の出勤管理については、紙のタイムカードからタブレットを使った打刻に変更したが、問題なく運用できている。

また、幼児クラスにiPadを追加した。

(4) 修繕関係

園舎が新しいため、大きな修繕は無いが、園舎を建設した田中建設の無償点検が実施され、経年劣化していたシーリング等を無償で補修していただいた。

(5) 災害対策

災害用食料品の補充入れ替えを実施。毎月1回の避難訓練に必ず消火訓練を行なった。

9月には引き渡し訓練を行い、訓練前には防災グッズ等の展示をし、意識の向上を行った。

避難用品をもう一度見直しをし、保管場所の確認、非常食品の賞味期限の点検も行う。

(6) 令和6年度実施行事

令和6年度実施行事

月	実施行事	保健行事
4月	入園式・進級式 各クラス懇談会 誕生会・こいのぼり集会	・身体測定 ・0才内科健診
5月	誕生会	・0才内科健診 ・全園児検診
6月	運動会 (2F 園庭) 誕生会 移動動物園	・0才内科健診 ・歯科衛生指導
7月	誕生会 おたのしみ保育 ※宿泊なし トウモロコシ収穫体験	・0才内科健診
8月	誕生会	・0才内科健診
9月	引き渡し訓練 誕生会 カレーパーティー	・0才内科健診
10月	誕生会 いもほり	・全園児健診
11月	七五三集会 誕生会	・0才内科健診 ・視力検査
12月	生活発表会 クリスマス誕生会	・0才内科健診 ・手洗い指導
1月	観劇会 誕生会	・0才内科健診
2月	めいとくフェスタ (1F 停車場) 懇談会 誕生会	・0才内科健診
3月	ひな祭り誕生会 お別れ遠足 新入園児面談 卒園式	・0才内科健診

毎月1回：避難訓練、全園児身体測定 毎月2回：体育指導

(7) 地域社会との連携

近隣の高齢者施設等との交流を予定していたが、新型コロナにより中止してから再開できていない。令和7年度は実施したい。

第三者評価について

令和6年度、第三者評価は行わず。次回は8年度の実施を予定している。

(8) その他

令和6年度は新型コロナの制限がなくなり、行事を含めて活動の幅が広がり、通常に戻っている。時期によって特定の感染症が広がる事があるが、ほとんどが潜伏期間中に他児に感染したと思われるケースなので、感染の拡大防止への対応は難しい。

また、令和6年度も1対1での配慮が必要な子どもが複数在園しているため、職員の配置だけではなく、運営面でも、子ども1人に職員1名の配置は厳しい。

人事院勧告による公定価格のアップがあり、職員の待遇改善ができたが、支援が必要な子どもへの1対1の職員配置を含めて他園より手厚く、配置基準以上の職員配置を行っているため、それぞれの職員に対しては十分な改善ができていない。

また、令和7年度も、配慮が必要な子どもは増える傾向にあると思われるため、早朝・延長・土曜保育など職員配置では厳しい状況になると思われる。

支援が必要な保護者への対応を引続き行っているが、やはり職員の負担は大きい。現在も保育課と連携しながら対応している。子ども・保護者の様子を見ながら適切に対応を行いたい。